令和6年度

# 芝田小学校
# 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童一人一人が，生き生きと活動する学級集団づくりをするとともに，基礎・基本を確実に身に付けさせ，自ら課題を見つけ，学び，考え，主体的に判断・行動し，よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

〇自ら学び，互いに高め合う授業の実践
〇 ICT を適切に活用して学習効果を高める授業の実践

## 学力向上検討委員会構成

**学力向上推進員**
教諭　津田真里

**委員**
校長：西川栄展　　教頭：内藤雅文
指導教諭・研修主任：森北育代
生徒指導主任：上田祥平
特別支援コーディネーター：林　裕子
養護教諭：松本真貴子

**校長**
西川　栄展

## ◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

**【各校の取組状況の把握について】**

管理職による授業参観，共通理解・共通実践後のアンケートや校内研修での話合いにより，取組状況を把握する。

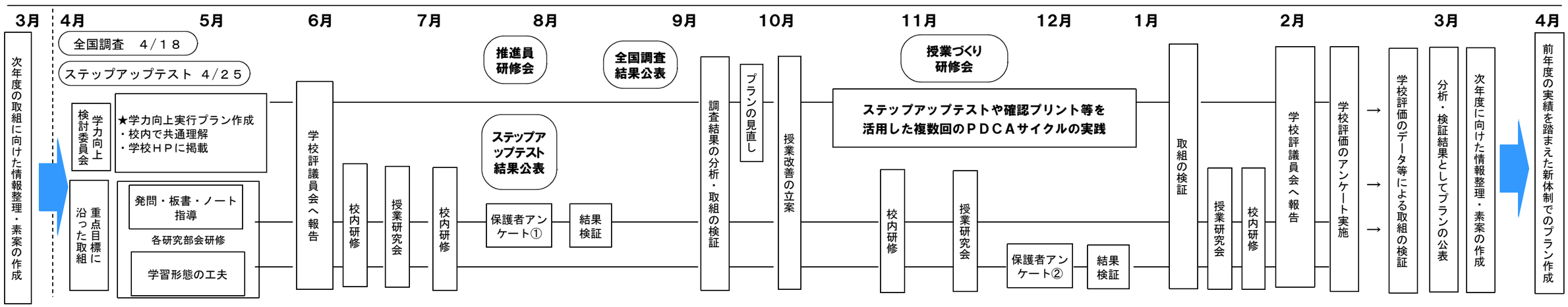
### （１）知識・技能の習得

| 児童生徒の状況（〇よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〇大切なことを落とさず聞く習慣が身についており，各教科において基本的な学習内容は概ね身に付いている。<br>●学力の二極化が見られ，「理解に時間がかかる」「定着が難しい」「語彙が少ない」児童がおり，個人差が大きい。 | ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け，それを様々な学習場面で活用することができる。<br>・学習のきまりや学習方法を習得し，進んで自分の考えを発表するとともに，辞典や資料，ICTから様々な情報を適切に収集し活用することができる。 | ・個に応じた指導を継続しながら，身に付けた基礎・基本的な知識技能を様々な学習場面でも活用できるように指導する。<br>・学習規律や学習方法を発達段階に応じて指導するとともに，身についた語彙力を使って，作文や俳句を作り，発表させることで学校全体のレベルアップを図る。 | ・各教科で身に付けた知識や学び方を,他教科での問題解決に生かすことができるようにする<br>・国語辞典やタブレット等の活用を習慣化し，語彙を増やすとともに,正確に読む力を身に付けさせる。 | ・理解や定着の難しい児童への個別指導により，一定の成果が見られた。<br>・阿波っ子タイムズの活用や俳句の投稿を年間を通して継続し，語彙の習得や言語感覚の向上が見られた。<br>・文章表現では，採点基準を示すことで構成や表現を工夫するようになった。 | ・語彙を習得するだけでなく，様々な場面で活用することができるよう指導する。<br>・習得したことを忘れる頃を見はからって，学習内容を思い出させる工夫を取り入れる。 |

### （２）思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況（〇よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〇小集団での話し合い活動においては，進んで表現しようとしたり筋道を立てて話したりする児童が増えてきた。<br>●与えられた材料から目的に応じて思考判断したり，複数の考えから新しい考えを生み出したりすることが苦手である児童が多い。 | ・協働的な学習に積極的に取り組み，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。<br>・語彙を増やし，叙述にそって読み取ることで，自分の考えを適切な言葉で説明し，豊かに表現することができる。 | ・自力解決の時間を重視するとともに，練り上げの場面では，それぞれの意見や考え方を筋道を立てて発表させたり，文章に書かせたりして，協働的によりよい解決ができるようにする。<br>・話し合い活動を全教育活動に位置づけ，対話的な活動の中で自分の考えを述べたり深めたりできるようにする。 | ・ペアやグループでの対話の前に個人で考える時間を確保し，必ず自分の考えをもつことができるようにする。<br>・学習の振り返りや考えを説明する際にキーワードとなる言葉を使うよう支援する。 | ・集会や行事等で，全校児童が感想や意見を進んで伝えることができるようになった。<br>・言語活動を重視した学習を積み重ね，筋道を立てて説明したり理由や根拠を明らかにして考えを述べたりする児童が増えた。 | ・引き続き，自分の考えを周りに伝える場を設け,大勢の前でも自分の言葉でしっかりと述べることができるようにする。<br>・ペアやグループ，全体など様々な学習形態で表現する機会を充実させ，発信する力を伸ばす。 |

### （３）主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況（〇よさ・●課題） | 具体的目標（目指す子供の姿） | 具体的方策（教員の取組） | 中間期の見直し | 達成状況（評価） | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 〇学習規律を守って，落ち着いた態度で学習に取り組むことができる。<br>〇 ICT の活用により，興味をもって学習したり，時間を有効活用して自己の課題に意欲的に取り組んだりする児童が増えている。<br>●難しいと感じることや苦手なことに根気強く取り組むことが難しい児童がいる。 | ・目標をもって学習に向かい，課題解決のために自分の考えをもったり，進んで意見を述べたりすることができる。<br>・様々な種類の本に触れ読書の質を高めたり，自主学習に進んで取り組んだりして，自ら学ぶ楽しさを実感することができる。 | ・新しい課題や疑問に思うことをICT等を効果的に使いながら，興味関心を持って自ら調べさせたり，積極的に解決の方法を考えさせたりする。<br>・学習過程において，学びを振り返る時間を設け，学習の達成度や自分のよさ，今後の課題等を認識できるようにする。<br>・積極的に本の貸し出しを行い，家庭と連携しながら家庭読書の習慣化を図る。 | ・ICTのよさを明確にし,必要な場面において有効に活用する。<br>・振り返りの時間を充実させ，次時の活動への意欲をもたせる。 | ・単元末の活用学習でjは，手段の一つとしてICTを効果的に活用し，意欲的に学習に取り組むことができた。<br>・全校的なPBSの取組により，読書に親しむ機会が増えたが，家庭読書については定着していない児童もいる。 | ・問題文や自分の解答を丁寧に見直し，根気強く取り組む態度を身に付けさせる。<br>・学校便りや学年通信等を利用して，学習の様子や成長などを家庭に発信し,理解と協力を得るようにする。 |

## 令和6年度　学力向上ロードマップ